

News Release

EY Japan
2026 年 10 月 16 日

EY ストラテジー・アンド・コンサルティング、「AI 活用プロジェクト評価・サービス」を提供 開始 ～第三者による多面的かつ総合的な評価を通じ、投資判断とプロジェクト改善に向けた 意思決定を支援～

EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:近藤 聡、以下 EYSC)は、企業の AI 活用プロジェクトを多面的かつ総合的に評価し、投資判断や改善に向けた意思決定を支援する新サービス「AI 活用プロジェクト評価・サービス」の提供を開始します。

本サービスは、AI 活用プロジェクトの企画、PoC(概念実証)、開発・導入、運用の各フェーズにおいて、ビジネス、テクノロジー、プロセスの観点からプロジェクトを客観的に評価するものです。評価を通じて現状の課題や改善機会を可視化し、事実に基づく意思決定を支援します。これにより、成果につながりにくい投資や不要な追加投資、手戻りの抑制を図り、ROI(投資対効果)の向上と持続的な事業価値創出に貢献します。

■背景

生成 AI をはじめとする AI 技術の進展により、多くの企業が AI 活用への投資を加速しています。一方で、AI 活用の取り組みが拡大する中、企業には「AI を導入すること」ではなく、「AI によってどのような事業価値を創出するか」を明確にし、その実現につなげることが求められています。

しかし、AI によって創出される事業価値や期待効果が十分に評価されないまま取り組みが進められているケースや、ROI が不明確なため PoC にとどまるケースも少なくありません。

こうした中、AI 導入の成否だけでなく、目指す価値の明確化から効果測定、運用定着まで、プロジェクトの各段階を継続的かつ客観的に評価し、継続・拡大・見直しなどの意思決定につなげるニーズが高まっています。

■AI 活用プロジェクト評価・サービスの概要

本サービスは、AI 活用プロジェクトをビジネス・テクノロジー・プロセスの観点から総合的かつ客観的に評価し、投資判断やプロジェクト改善に向けた意思決定を支援するサービスです。

AI 導入やシステム開発を直接推進する立場ではなく、第三者の視点からプロジェクトを評価することで、事業戦略との整合性(ビジネス)、戦略・事業価値の実現可能性(テクノロジー)、推進計画の妥当性、ガバナンスやリスク対応状況(プロセス)などを多面的に確認し、必要に応じて改善策や軌道修正を提言します。

これにより、成果の出にくいテーマへの投資を避けるとともに、業務要件と AI モデルのミスマッチや、AI で活用するデータの品質に起因する精度低下のリスクを早期に把握し、結果として、信頼性の高い、安定的かつ継続的な AI 活用につなげることで、ROI の向上を目指します。

■支援例

● AI 活用テーマ・プロジェクトの評価支援

事前準備フェーズから運用フェーズまで、AI 活用テーマの妥当性や期待効果、実現可能性を評価し、優先順位付けや投資判断を支援します。

● AI モデル・データ品質の評価支援

AI モデルの信頼性や精度の安定性に関する課題を明確にし、継続的な AI 活用につなげます。

● AI ガバナンス・リスク評価支援

データ品質、セキュリティ、コンプライアンス、運用体制などを評価し、AI 活用に伴うリスクや改善課題を可視化するとともに、必要な対応策を提言します。

AI活用プロジェクト評価フレームワーク（EY仮説）

軸	観点	主な評価項目	評価対象（資料、データなど）		
			事前準備フェーズ	開発・導入フェーズ	運用フェーズ
ビジネス	① 戦略との整合性	■ ビジネス目的・背景 ■ PoC実施方針 ■ 体制・ステークホルダー	初期段階の見込み、PoCの結果を考慮した業務・機能要件	運用上の懸念事項や現実的なシステム制約	
テクノロジー	② 戦略・事業価値の実現可能性	■ 業務適用効果 ■ AIモデル ■ データ品質・有効性	PoCにおけるROIの効果測定結果	検証用データにて確認した効果測定結果	本番業務における効果測定結果
プロセス	③ プロジェクト計画の推進状況	■ 進捗 ■ コスト・予算 ■ リスク・課題	プロジェクト計画書記載の予定や管理方法	進捗やコスト・予算等のプロジェクト実績	
	④ ガバナンスによるリスク管理	■ コンプライアンス ■ セキュリティ	PoC期間中に整備したルール（ポリシー、スタンダード、運用手順など）	開発・導入フェーズにおけるルールの順守状況	本番業務におけるルールの順守状況

EYSC リスク・コンサルティング アソシエートパートナー 岩本 祐樹コメント：

「近年、多くの企業が生成 AI をはじめとする AI 活用に取り組んでいますが、PoC の段階で停滞するケースや、ROI が十分に検証されていないままプロジェクトが進行するケースも少なくありません。EYSC は、本サービスを通じて AI 活用プロジェクトを客観的に評価し、課題や留意点を可視化することで、企業が事業価値創出に向けた適切な意思決定を行えるよう支援します。AI 活用による ROI の向上を通じて、企業の持続的な成長に貢献していきたいと考えています」

詳細は以下をご覧ください。

https://www.ey.com/ja_jp/services/consulting/ai-utilization-project-evaluation-service



〈EY について〉

EY は、クライアント、EY のメンバー、社会、そして地球のために新たな価値を創出するとともに、資本市場における信頼を確立していくことで、より良い社会の構築を目指しています。データ、AI、および先進テクノロジーの活用により、EY のチームはクライアントが確信を持って未来を形づくるための支援を行い、現在、そして未来における喫緊の課題への解決策を導き出します。EY のチームの活動領域は、アシュアランス、コンサルティング、税務、ストラテジー、トランザクションの全領域にわたります。蓄積した業界の知見やグローバルに連携したさまざまな分野にわたるネットワーク、多様なエコシステムパートナーに支えられ、150 以上の国と地域でサービスを提供しています。

All in to shape the future with confidence.

EY とは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EY による個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacy をご確認ください。EY のメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EY について詳しくは、ey.com をご覧ください。

〈EY のコンサルティングサービスについて〉

EY のコンサルティングサービスは、人、テクノロジー、イノベーションの力でビジネスを変革し、より良い社会を構築していきます。私たちは、変革、すなわちトランスフォーメーションの領域で世界トップクラスのコンサルタントになることを目指しています。7 万人を超える EY のコンサルタントは、その多様性とスキルを生かして、人を中心に据え(humans@center)、迅速にテクノロジーを実用化し(technology@speed)、大規模にイノベーションを推進し(innovation@scale)、クライアントのトランスフォーメーションを支援します。これらの変革を推進することにより、人、クライアント、社会にとっての長期的価値を創造していきます。詳しくは ey.com/ja_jp/consulting をご覧ください。

《 本件に関するお問い合わせ 》

EY Japan BMC (Brand, Marketing and Communications)

japan.corporatecomm@jp.ey.com